



浜松ハーモニーロータリークラブ週報

No.1041 2021.05.19 (水)

2020~21年度 RI 会長 ホルガー クナーク

RI2620 地区ガバナー 志田洪頭(静岡ロータリークラブ)

Hamamatsu
Harmony RC
Weekly
Bulletin

会長挨拶

山口勝義

コロナ禍が長期化して不自由な環境が続いています。精神的にも負荷がかかり、今をどう、よく生きることが望ましいのか考えさせられるのではないのでしょうか。先日、「こころの時代～宗教・人生～瞑想でたどる仏教～心と身体を観察する」という番組を見る機会がありました。コロナ禍の環境下にはタイムリーで、現状にオーバーラップしてよいヒントが多くありました。苦しみは心の中の欲望から生まれる。苦しみから逃れる道は、日々の環境を整えることである。仏教にある戒律の戒(シーラ)とは習慣であり、心身を整えていくために良い習慣を主体的に自ら進んで身につけることが大事である。また、あらゆることについて慎むことは善いことであり、全ての苦しみより脱がれことにつながる。苦しみはあらゆる感覚器官から入って来て心をざわつかせるため、その環境から離れることが必要で、様々な関係性のなかの「自己中心性」から離れることで弊害を越えられると、すべてのものはつながっている感覚を持てるようになり、自分と世界との関係性が見えてくる。瞑想によって心の仕組みと世界との関わりに気づき、「生きとし生けるものは幸せであれ」苦しみの解放から慈悲の心に気づき、幸せであることを他者にも振り向けていけるようになる。この心身の観察によって得られる、自分へ向けた智慧。他者との関係性の中で生まれる思いやり、社会に向けた慈悲。これが仏教にとって大事な2本柱だそうです。意外にロータリーにも通じて生かせる学びでした。



また、先日 5/15(土)に開催された、RI2730 地区大会での地区指導者育成セミナー、RLI 日本支部ファシリテーター委員長の中村靖治氏の講演を視聴しました。前半は「ロータリーの中核的価値観を中心にロータリーの親睦を考える」との内容でした。今日の世界は変化のスピードが加速し、つながりや奉仕の新たな機会が生み出されています。不変なのはロータリーを定義づける中核的価値観に対するニーズです。中核的価値観の中で以前は一番目にあった奉仕: Service が最近では親睦: Fellowship (組織の中で生まれる友情) に代わり、これを大切にするようになってきているそうです。1923-24RI 会長であったガイ・ガンデカー(Guy Gundaker)氏の Fellowship の「利己と利他の調和」から 1923 年に開催されたセントルイス国際大会に提出された第 34 号議案決議で「超私の奉仕」公式標語が生まれたそうです。「会員に対するロータリークラブの義務と責任」では「よい親睦とは、必ずしもロータリーの肝心肝要の部分ではありません。しかし、ロータリーという組織が根を下ろし枝葉を伸ばすために、よい親睦は最高の土壌といえます。」とありました。決して低いリスク環境下ではありませんが、細心の注意を払いながらも大切な時間を楽しみ共有していきましょう。

プログラム「格付けチェック II」



格付けアイテム

- ・赤ワインはどっち？
- ・エビ煎餅はどっち？
- ・超高級茶の香りはどっち？
- ・秀治名人のかっぱ巻きはどれ？



浜松ハーモニーロータリークラブ

〒432-8507 浜松市中区東伊場1-3-1 グランドホテル浜松内

Tel: 053-413-1782 Fax: 053-413-1781 e-mail: hhrc@plum.ocn.ne.jp